

指導部だより

指導部高等学校教育指導課 指導主事 横田雅博

前回、都数研会報第 127 号で紹介しました「高大接続・大学入学者選抜の改善」に関する答申案が、10 月 24 日に示されました。今回はこれについてお話しします。

答申案によると、現在実施されている大学入試センター試験に替わるものとして、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を新たに平成 32 年度から実施することとし、また、就職活動等にも使える新テスト「高校基礎学力テスト(仮称)」を、平成 31 年度から始めることとしています。

さらに、選抜性の高い大学においては、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を活用しつつ、個別選抜については、小論文や面接、集団討議等で多角的な評価に転換するよう提言しています。

これらの提言は、高等学校の数学教育において、これまでの授業形態や評価方法を見直すことを求めることとなり、数学的活動の在り方等においても大きな変換点となると思います。

また、答申案には、次のような記載があります。

(1) 「高等学校においては、小・中学校に比べ知識伝達型の授業に留まる傾向があり、学力の三要素(『学習意欲』『思考力・判断力・表現力等』『知識・技能』)を踏まえた指導が浸透していない。」

(2) 「社会で自立して活動していくために必要な力という観点から捉え直し、高等学校教育を通じて、(i)これからの時代に社会で生きていくために必要な『課題の発見・解決』向け、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ力(主体性・多様性・協同性)」、(ii)その基盤となる『知識・技能の活用力』、(iii)さらにその基盤となる『知識・技能』を育むこと。」と指摘しています。また、評価においては、「多元的な評価が求められ、複雑な課題に知識・技能を活用して取り組むことを求める『パフォーマンス評価』、そうした複雑な課題の達成度を数段階に分けて、達成度を判断する基準を示す『ルーブリック』、様々な学習量や成果の記録等を蓄積して学習評価を把握する『ポートフォリオ評価』等、新たな評価手法を研究・開発していく必要がある」となっています。

これまで東京都教育委員会は、教育研究員や研究開発委員会において、「言語活動の充実」や「思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価」、「学び直し学力スタンダード」等を研究主題として、授業改善を図る取組を行ってきました。今後は、今回の答申案の内容を踏まえ、さらなる授業改善を図る必要があると考えます。

優れた研究を実践されている東京都高等学校数学教育研究会の皆さまには、学習指導法分科会や大学入試分科会をはじめ、それぞれの分科会において、今回の答申案で高等学校教育に求められている項目・キーワードについて、今後、研究の対象として取り組み、東京都の数学教育を牽引していただくことを期待しています。

東京都教職員研修センターだより

研修部専門教育向上課 指導主事 岡田光章

東京都教職員研修センターの「教科等・教育課題研修」における「専門性向上研修」の算数・数学の研修について、御紹介いたします。

【算数ⅠA】(対象:小学校・特別支援学校)
「算数的活動を重視した授業づくり」

【数学ⅠB】(対象:中学校・高等学校・特別支援学校)
「数学的活動を重視した授業づくり」

【算数ⅡA-1、2】(対象:小学校・特別支援学校)
「数学的な考え方を生かした算数科の授業」

【数学ⅡB】(対象:中学校・高等学校・特別支援学校 中学部・高等部)
「生徒が学ぶ楽しさや意義を実感する授業づくり」

【算数・数学ⅡC】(対象:小学校・中学校・特別支援学校)
「算数・数学科における理科との関連を踏まえた指導」

【算数Ⅲ】(対象:小学校・特別支援学校)
「授業改善の視点と算数の指導の充実」

【数学Ⅰ・Ⅱ】(対象:中学校・高等学校・特別支援学校 中学部・高等部)
「高等学校数学に関する授業研究と講演会」

研修では、大学の教授等を講師として招き、専門的な知識を深めたり、参考となる授業を参観し協議を通して、実践力を高めたりすることをねらいとしております。

受講者からは、次のような感想をいただいています。

生徒が主体的に学びたいと思うように授業改善をしたい。自ら課題を見つけ、自主的に問題解決をしようとする生徒を育てられるよう工夫した授業をするために、教材研究に力を注ぎたい。(中学校)

授業を臨むうえで意識すべきこと、準備するうえで考えておくことを認識できました。教材の本質や有用性などをしっかり考え、生徒が主体的に学習できる授業を目指していきたいと思います。(高等学校)

ぜひ、教職員研修センターの研修を活用していただき、自身の専門性の向上はもとより、若手教員の育成にも生かしていただきたいと思います。